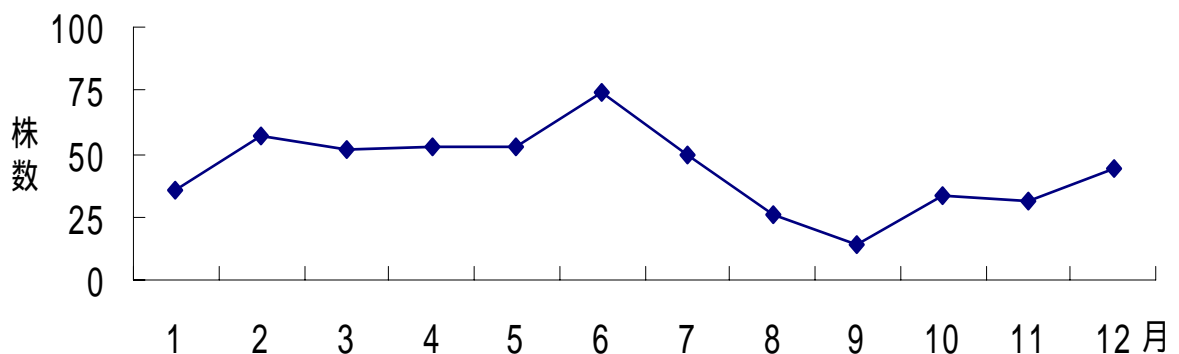


平成 16 年 10 月 19 日 発行

A 群溶血性レンサ球菌の分離状況について

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は定点把握の五類感染症で、幼児、学童を中心に毎年季節的な流行を繰り返しています。埼玉県衛生研究所では、県内の小児科定点と浦和医師会メディカルセンターの協力により、上気道炎患者咽頭拭い液からの A 群溶血性レンサ球菌の分離と送付菌株の血清型別等の検査を実施しています。2003 年 1 月から 12 月に分離された A 群溶血性レンサ球菌は 523 株で、月別の検査数では、6 月にピークがみられました。

A 群溶血性レンサ球菌の月別分離状況(2003)



年齢層で見ると 0～9 歳からの分離が最も多く 276 株(52.7%)で、以下 10～19 歳で 93 株、30～39 歳で 63 株の順でした。血清型別では、2003 年の分離株は型別不能(UT)を除き 15 血清型に型別され、最も多く分離された血清型は 2 月から 7 月に多く分離された T3 型で、次いで T12 型、T6 型、T28 型の順でした。また、2002 年に比べ、T3 型、T6 型の分離例が多く、分離菌型の変遷が認められました。